

## マテリアリティ(重要課題)の特定

古河機械金属グループは経営理念の具現化と社会課題の解決により一層尽力していくため、「サステナビリティへの取り組みに関する基本方針」に基づく10項目のマテリアリティ(重要課題)を特定し、目標等を設定しています。

設定した目標等について着実なPDCAを実践することで、「2025年ビジョン」にも明記している「CSVの視点を織り込んだ『マーケティング経営』による古河ブランドの価値向上」を目指します。

あわせて「当社グループのCSR/ESG課題に配慮した事業運営の実践による企業価値の向上」を強力に推進し、「社会価値」の創造および中長期的な「企業価値」の向上を目指します。

なお、マテリアリティ(重要課題)については、事業環境の変化や、事業戦略の見直し等を踏まえ、必要に応じて定期的に見直しを検討いたします。

### ● マテリアリティ(重要課題)特定のプロセス

Step 1	Step 2	Step 3
社会課題の抽出	重要度の把握	マテリアリティ(重要課題)特定
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中長期的な視点で、当社グループおよび様々なステークホルダーが重要と認識する課題を洗い出し。 【参考】GRIスタンダード、ISO26000、SDGsの指標・ターゲット、他社の動向等</li> <li>● 50項目のマテリアリティ(重要課題)候補を抽出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抽出した50項目について、社内アンケートを実施。課題に対する重要度を評価。</li> <li>● 結果の集計とスコアリングを実施。</li> <li>● 社会的要請等に鑑みながら、10項目のマテリアリティ(重要課題)に集約。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2022年10月開催の経営会議、2022年11月11日開催の臨時取締役会にてマテリアリティ(重要課題)の特定を決議。</li> </ul>

### ● 古河機械金属グループサステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ(重要課題)

<b>攻め：CSV課題</b> 事業を通じた「社会課題」の解決に関するマテリアリティ(重要課題)		関連する主なSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮した製品・技術・サービスの提供</li> <li>● お客様の課題解決への貢献</li> <li>● インフラ整備など安全で快適な社会づくりへの貢献</li> </ul>		 
<b>守り：CSR/ESG課題</b> 成長に向けた経営基盤の整備に関するマテリアリティ(重要課題)		関連する主なSDGs
<b>E：環境</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業活動における気候変動対策の推進</li> <li>● 生物多様性保全活動の推進</li> </ul>	 
<b>S：社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備</li> <li>● 多様な人材の確保と育成</li> <li>● 人権を尊重した経営の推進</li> </ul>	  
<b>G：企業統治</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社的リスクマネジメント体制の整備</li> <li>● コンプライアンスの徹底</li> </ul>	 

## 事業を通じた社会課題の解決

当社グループは「社会課題」の解決に役立つインフラ整備、製品・技術・サービスなどを提供することで、「企業価値」を創造すると同時に「社会価値」の創造に寄与していきます。SDGsの17の目標のうち、特に「11.住み続けられるまちづくりを」と「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」への貢献を行うとともに「古河機械金属グループの価値創造プロセス」にて明示している「社会インフラ整備」、「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」の創造を実現していきます。

マテリアリティ (重要課題)		目標	取り組み	部門
攻め：CSV課題 事業を通じた 「社会課題」の 解決に関する マテリアリティ (重要課題)	環境に配慮した 製品・技術・ サービスの提供	お客様のCO <sub>2</sub> 排出量 削減および省エネルギー 化・高効率化を実現する 製品の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減等の環境負荷低減に貢献する密閉式吊下げ型コンベヤ(SICON®)の需要創出と販売促進</li> <li>高効率型スラリーポンプ(LK3)の投入</li> </ul>	産業機械
			<ul style="list-style-type: none"> <li>低燃費性能の油圧クローラドリルの販売</li> <li>LCS(ライフサイクルサポート)による作業の効率化や負荷低減の提案</li> </ul>	ロックドリル
			<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー、低騒音のエコクレーンの販売</li> <li>ミニ・クローラクレーンの高付加価値製品(バッテリー型・分解型等)の拡販</li> <li>ユニッククレーンおよびユニックキャリアの車両電動化への対応</li> </ul>	ユニック
			<ul style="list-style-type: none"> <li>低燃費自動車等の省エネルギー製品支援のための材料(高純度金属ヒ素、結晶、コアコイル、窒化アルミセラミックス)の販売</li> </ul>	電子
	お客様の課題解決への 貢献	ICT/AIの活用による自 動化された機械製品の 提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>無人化・省人化製品(全自動ドリルジャンボ、ロックボルト施工機、エレクト付コンクリート吹付機等)の販売強化</li> <li>油圧クローラドリルのセミオートせん孔機の販売強化</li> <li>DX活用によるサポートプログラム商品販売により、顧客の生産性向上</li> </ul>	ロックドリル
			<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体部品の小型化、軽量化、高機能化に貢献する酸化銅の販売</li> </ul>	化成品
	インフラ整備など 安全で快適な 社会づくりへの貢献	インフラ整備、老朽化 対策のための製品の提 供およびプロジェクト への参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼橋梁の安定受注と鉄構製品の拡販</li> <li>社会インフラ事業を中心に大型プロジェクトの受注拡大</li> <li>豪雨対策や老朽化した下水処理場更新に寄与するポンプ設備の受注拡大</li> <li>災害復旧のための骨材供給に貢献する破砕機の販売</li> </ul>	産業機械
			<ul style="list-style-type: none"> <li>解体市場向け大型、超大型油圧ブレーカの販売強化</li> <li>油圧圧砕機の小割機集中販売(道路ゼネコン、骨材リサイクル向け)</li> <li>リニア中央新幹線トンネル工事向けトンネルドリルジャンボの販売強化</li> </ul>	ロックドリル
			<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ・クローラクレーンのターゲット顧客(電力、ゼネコン等)を絞った新規市場開拓</li> <li>狭小地向け住宅建築用クレーンの発売</li> </ul>	ユニック
			<ul style="list-style-type: none"> <li>各種センサー、インフラ構築等のインフラ整備支援のための材料(高純度金属ヒ素、結晶、コアコイル、窒化アルミセラミックス、光学部品)の開発・販売</li> </ul>	電子
<ul style="list-style-type: none"> <li>水環境保全製品の販売促進</li> </ul>			化成品	

## 成長に向けた経営基盤の整備

古河機械金属グループは、成長に向けた経営基盤の整備のため、以下のとおり「CSR/ESG 課題に配慮した事業運営による企業価値の向上」に取り組んでいます。

マテリアリティ		目標	
<b>守り：</b> <b>CSR/ESG 課題</b> 成長に向けた経営基盤の整備に関するマテリアリティ（重要課題）	E(環境)	<b>事業活動における気候変動対策の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコープ1(エネルギー起源)、スコープ2について2030年度までに2023年度比25%削減</li> <li>・2050年カーボンニュートラル達成</li> </ul> </li> <li>水資源使用量の削減(2028年度 2028年度BAU比<sup>※1</sup>削減率△2%)(2025年度より変更：2027年度 2023年度実績(原単位)比削減率△2%)</li> <li>廃棄物等総排出量の削減(2028年度 2028年度BAU比削減率△3%)(2025年度より変更：廃棄物等総排出量の削減 2027年度 2023年度実績比削減率△2%、プラスチック廃棄物の削減 2027年度 2023年度実績比削減率△2%)</li> </ul>	
		<b>生物多様性保全活動の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な山林管理の推進</li> <li>社有地、鉱山跡地の生態系再生等の活動推進</li> <li>有害化学物質の削減(有害化学物質使用削減率)(2025年度より変更：PRTR<sup>※2</sup>対象物質の排出量と移動量 2027年度 2023年度実績比削減率△2%)</li> </ul>	
			<b>健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>無事故・無災害達成(労働災害強度率、労働災害度率)</li> <li>健康経営優良法人ホワイト500認定</li> <li>健康経営総合調査スコア 54.6(2024年度)以上</li> </ul>
		<b>人権を尊重した経営の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権デュー・ディリジェンスの実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・調達先の人権リスク評価実施率の向上およびフォローアップ</li> </ul> </li> </ul>	
			<b>全社的リスクマネジメント体制の整備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続マネジメント(BCM)の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画(BCP)の定期確認</li> </ul> </li> <li>リスク評価の実施と対応策の改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高リスク項目の定期的見直し</li> </ul> </li> <li>サイバーセキュリティ体制の強化</li> </ul>
	G(企業統治)	<b>コンプライアンスの徹底</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス違反の防止機能向上</li> </ul>	

※1 BAU(Business As Usual)：何も対策を講じなかった場合。

※2 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)制度：環境汚染物質排出・移動登録制度

2024年度実績	
数値実績	主な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量実績               <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコープ1(エネルギー起源)およびスコープ2排出量2023年度比1%削減</li> <li>・連結ベース 2024年度 33,779t-CO<sub>2</sub></li> <li>2023年度 34,143t-CO<sub>2</sub></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中核事業会社における太陽光発電設備導入の検討</li> <li>● 2025年4月より群馬環境リサイクルセンター(株)で購入する全電力を再生可能エネルギーに切り替え</li> <li>● スコープ1、2の第三者検証の検討(取得は2025年8月)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2024年度BAU比削減率: △9.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各工場・各所の環境パフォーマンス改善を図るため、環境保全データ集計結果報告書を各所へ年2回配信し、フィードバック</li> <li>● 環境保全データ集計のクラウド化を推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2024年度BAU比削減率: △20.7%</li> </ul>	
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛知県と治山事業の協定締結(大沼山林)、大沼山林において間伐および作業道モルタル吹付実施</li> <li>● 足尾地区山林現状調査、森林の可視化およびロードマップの検討</li> </ul>
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 古河の森植樹会を開催</li> <li>● 久根、足尾地区におけるホテル再生活動を継続。ホテル飛翔確認</li> <li>● 自然共生サイト(30by30アライアンスを含む)登録に向け現地確認実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対前年度比+4.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各工場・各所の環境パフォーマンス改善を図るため、環境保全データ集計結果報告書を各所へ年2回配信し、フィードバック</li> <li>● 環境保全データ集計のクラウド化を推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働災害強度率: 1.55</li> <li>● 労働災害度数率: 1.03</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各工場・各所の事故災害報告書に基づき、各所への指導を実施</li> <li>● 労働安全教育ビデオを17本作成、運用開始</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康経営総合調査スコア: 54.6</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康経営優良法人2025認定</li> <li>● 健康増進イベント、セミナー等の計画、実施、評価</li> <li>● エンゲージメントサーベイ実施検討</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性管理職比率(古河機械金属(株)籍社員): 2.4%</li> <li>● 企画職群の新卒採用者(国内採用の古河機械金属(株)籍社員)に占める女性の割合: 6.7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経験者採用において女性の採用強化</li> <li>● リクルーティングスキル強化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理社員層、企画職群の新規採用者に占める経験者採用の割合: 73%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リファラル採用、ダイレクトリクルーティング</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者雇用率(連結): 1.91%(法定雇用率2.5%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者雇用支援機関訪問</li> <li>● 各事業会社への雇用推進情報提供</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間研修実施時間: 1,130時間 受講者数: 3,175名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タレントマネジメントシステムの導入(考課、目標管理のシステム化)</li> <li>● 階層別研修、技術者研修、現場管理者研修、事業所企画研修・教育訓練、専門職群若手社員向け研修</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権研修実施回数: 年6回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新入社員対象1回、新任管理職対象1回、人権リスク部会出席者対象1回、環境リスク部会出席者対象1回、資材部人権研修2回</li> <li>● 人権リスク評価の精度向上方策の検討</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達先の人権リスク評価(CSRアンケート)実施率: 2024年度対2022年度比74件増(累計52%増)</li> <li>● 人権に係る調査・面談・研修会実施件数(企業数): 2024年度対2022年度比 調査74社、面談15社、研修会0社増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2024年度は海外現地法人(FUT<sup>※3</sup>・泰安古河<sup>※4</sup>)における現地調達先アンケートの実施・分析を完了し、現地訪問調査を開始</li> <li>● CSRアンケートの英語版・中国語版・タイ語版作成完了</li> <li>● 国内機械3工場の海外調達先アンケートを2025年度に計画し実施予定</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● BCPの定期確認: 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部中核事業会社BCPの改訂</li> <li>● BCP訓練の企画・検討(実施は2025年4月)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスク対応策の見直し: 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 管理部門を対象にヒアリングを実施</li> <li>● 最重要リスクの特定、対応策検討、取締役会への報告</li> <li>● 2023年度に特定した最重要リスクのフォローアップ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 標的型攻撃メール訓練実施回数: 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 古河機械金属グループ役員向けセキュリティ講習会を1回実施</li> <li>● セキュリティニュースを2回発行</li> <li>● セキュリティの外部監査を受け、緊急度・重要度を勘案したセキュリティ対策の計画を立案。順次実施中</li> <li>● サイバーセキュリティ人材向けeラーニング受講</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修の実施回数: 7回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新入社員向けコンプライアンス研修、グループ責任者・役員向けコンプライアンス研修、中核事業会社の要望に応じたコンプライアンス研修の実施</li> <li>● コンプライアンス研修動画の社内ポータルサイト掲載</li> <li>● コンプライアンス意識調査の実施</li> <li>● 独占禁止法マニュアル(販売編)の改定作業の推進</li> </ul>

※3 FUT: FURUKAWA UNIC (THAILAND) CO.,LTD.

※4 泰安古河: 泰安古河随車起重機有限公司